

タイトル： 二つの相似な長方形による対角線ずれ錯視

氏名：白井健太郎

所属：立命館大学・日本学術振興会

連絡先：cp0004xr (at mark) ritsumeai.ac.jp

相似の関係にある長方形二つを一つの角が重なるように配置する。小さい長方形の対角線を重なっている角を始点として延長しようとする、大きい長方形の対角線からずれた位置につながるように見える。2つの長方形は相似であり、対応する対角線の傾きは等しいので、小さい長方形の対角線と大きい対角線の長方形の対角線は物理的には一致する（図1・図2）。

2つの長方形の比は錯視に影響する（図3）。また、対角線自体の傾きは錯視に影響し、同じ長方形のセットでも、縦長に配置するか横長に配置するかで錯視の方向が逆になる（図4）。対角線自体が垂直・水平にあるときは錯視が生じない（図5）。本錯視は、同じ規格でサイズが異なる紙が2枚あれば簡単に体験できることも特筆したい（例A3とA4、B4とB5）（図6）。